

## 平成27年3月期 第1四半期決算について

ANAホールディングスは、本日7月30日(水)、平成27年3月期 第1四半期決算を取りまとめました。詳細は「平成27年3月期 第1四半期決算短信」をご参照ください。

## 1. 平成27年3月期 第1四半期の連結経営成績・連結財政状態

## (1) 概況

- ・当第1四半期のわが国経済は、消費税率引き上げに伴う駆け込み需要の反動により、弱い動きも見られましたが、設備投資の増加や、個人消費に一部持ち直しの動きが見られ、緩やかな回復基調が続きました。また、先行きについては、各種政策の効果が発現する中で、緩やかに回復していくことが期待されています。
- ・国際線の事業規模を拡大させた航空事業を中心として、売上高は352億円の増収(前年同期比10.0%増)となりました。一方で、事業規模の拡大に連動して燃油費等の営業費用が増加したことから、営業損益は前年同期より59億円の増益となりました。
- ・連結子会社である全日本空輸株式会社において、確定給付年金制度の一部を確定拠出年金制度に移行したこと等により、99億円の特別利益を計上しました。
- ・英国スカイトラックス社より、当社グループは日本で唯一、顧客満足度の最高評価「5スター」エアラインに2年連続で認定されたことに加え、空港サービス全般と太平洋地域に就航する航空会社の総合的なサービス品質の2部門にて、世界で最も優秀な航空会社に選ばれました。
- ・円安、燃油高傾向が継続する中で中期的に目標とする利益水準を達成すべく、「2014-16年度 ANAグループ中期経営戦略」を着実に遂行しております。

これらの結果、第1四半期の連結経営成績は売上高が3,868億円となりましたが、営業利益は3億円、経常損失は25億円、四半期純利益は34億円となりました。

単位：億円(増減率を除き、単位未満は切り捨て)

【連結経営成績】	平成27年3月期 第1四半期	平成26年3月期 第1四半期	増減	増減率(%)
売上高	3,868	3,515	352	10.0
営業費用	3,864	3,571	293	8.2
営業損益	3	▲56	59	—
営業外損益	▲28	▲56	27	—
経常損益	▲25	▲112	87	—
特別損益	100	18	82	443.7
四半期純損益	34	▲66	101	—

単位：億円(単位未満は切り捨て)

【セグメント情報】	平成27年3月期 第1四半期		平成26年3月期 第1四半期		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
航空事業	3,351	▲11	3,055	▲65	296	53
航空関連事業	536	27	457	12	78	15
旅行事業	367	7	363	6	3	1
商社事業	300	5	264	7	35	▲2
その他	75	1	70	1	5	0

会計方針の変更に伴い、前第1四半期の売上高および営業費用の一部を遡及修正しております。

## (2) 航空事業

### ①国内線旅客

- ・競争激化の影響等により単価が下落したものの、ビジネス需要が堅調に推移したことや、好調なプレミアム需要を着実に取り込んだ結果、旅客数・収入ともに前年同期を上回りました。
- ・サマーダイヤから、「羽田発着枠政策コンテスト」で配分された発着枠を活用し、羽田＝石見・鳥取線を増便する等、ネットワークの充実によるお客様の利便性向上を図りました。また、供給量を抑制する中でも需要動向に応じ機動的な機材変更を行う等、需給適合に努めました。
- ・各種「旅割」運賃の水準をきめ細かく見直す等、需要喚起に努めました。
- ・サービス面では、羽田空港において国際線と国内線とを乗り継ぐお客様を対象とした「ANA 国際線乗り継ぎバス」の運行を開始する等、利便性の向上を図りました。また、日本各地の多様な魅力を国内外に発信する「Tastes of JAPAN by ANA」では、各地の特産品を機内や地上サービスに取り入れる等、競争力の強化に努めました。

結果として、国内線旅客収入は9億円の増収(前年同期比0.7%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国内線旅客】	平成27年3月期 第1四半期	平成26年3月期 第1四半期	増減	増減率(%)
旅客収入(億円)	1,483	1,473	9	0.7
旅客数(千人)	9,970	9,690	280	2.9
座席キロ(百万座席キロ)	14,839	14,909	▲70	▲0.5
旅客キロ(百万人キロ)	8,788	8,495	293	3.5
利用率(%)	59.2	57.0	2.2	——

### ②国際線旅客

- ・新規路線開設および増便による事業規模の拡大に加え、ビジネス需要・プレミアム需要の双方を積極的に取り込んだこと等により、旅客数・収入ともに前年同期を上回りました。
- ・羽田空港発着枠の拡大に伴い、サマーダイヤから羽田＝ロンドン・パリ・ミュンヘン・ハノイ・ジャカルタ・マニラ・バンクーバーの7路線を新規開設したことに加え、羽田＝フランクフルト・シンガポール・バンコクの3路線を増便し、ビジネス需要や日本各地からの乗り継ぎ需要を取り込みました。また、成田ではデュッセルドルフ線を新規開設した他、既存路線の運航ダイヤを調整し、国際線接続の利便性を向上させました。
- ・ゴールデンウィーク期間を中心に「ビジ割」「エコ割」等の各種割引運賃を全方面に設定し、プレミアム需要の取り込みを強化しました。
- ・サービス面では、羽田空港の「ANA SUITE LOUNGE」「ANA LOUNGE」を増設・拡張してお客様の快適性を高める等、フルサービスキャリアとしての競争力強化に努めました。

結果として、国際線旅客収入は197億円の増収(前年同期比22.1%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【国際線旅客】	平成27年3月期 第1四半期	平成26年3月期 第1四半期	増減	増減率(%)
旅客収入(億円)	1,092	895	197	22.1
旅客数(千人)	1,689	1,436	253	17.7
座席キロ(百万座席キロ)	12,273	9,805	2,468	25.2
旅客キロ(百万人キロ)	8,471	6,963	1,508	21.7
利用率(%)	69.0	71.0	▲2.0	——

### ③貨物

- ・国内線貨物は、九州・沖縄発を中心とした生鮮貨物の需要が堅調であったことに加え、宅配需要を積極的に取り込んだこと等により、輸送重量・収入ともに前年同期を上回りました。
- ・国際線貨物は、旅客便ネットワークの拡大に加え、貨物専用機を1機追加導入して沖縄ーシンガポールー成田線、成田＝ジャカルタ線を新規開設するなど貨物ネットワークを拡大し、日本発貨物の他、需要が堅調なアジア・中国発北米向け貨物等を取り込みました。また、沖縄貨物ハブの活用により、アジア域内の三国間輸送貨物やエクスプレス貨物等を積極的に取り込んだこと等により、単価は下落したものの、輸送重量・収入ともに前年同期を上回りました。

結果として、国内線貨物収入は5億円の増収(前年同期比7.4%増)、国際線貨物収入は48億円の増収(前年同期比19.6%増)となりました。

(増減率、利用率を除き、単位未満は切り捨て)

【貨物】		平成27年3月期 第1四半期	平成26年3月期 第1四半期	増減	増減率(%)
国内線	貨物収入(億円)	76	71	5	7.4
	輸送重量(千トン)	110	101	8	8.6
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	111	101	10	10.1
国際線	貨物収入(億円)	293	245	48	19.6
	輸送重量(千トン)	212	162	49	30.6
	有償貨物トンキロ(百万トンキロ)	891	666	225	33.8

### ④その他

- ・マイルージ収入や整備受託収入、バニラ・エア(株)等の収入で構成される航空事業におけるその他の収入は、382億円(前年同期比9.7%増)となりました。
- ・バニラ・エア(株)では、認知度の向上を図るべく、他業種とのコラボレーションやテレビドラマとのタイアップ等を推進しました。当第1四半期における輸送実績は、旅客数は198千人、利用率は59.7%となりました。また、7月より新規開設した奄美大島線の特別運賃を設定する等、就航記念キャンペーンを展開し、需要喚起に努めました。

### (3) 航空関連事業・旅行事業・商社事業・その他

- ・航空関連事業においては、羽田空港での空港地上支援業務の受託増等により、当第1四半期の売上高は536億円(前年同期比17.3%増)、営業利益は27億円(前年同期比124.4%増)となりました。
- ・旅行事業においては、国内旅行では、ダイナミックパッケージ「旅作」が関西方面を中心に全方面で取扱高が増加しました。海外旅行では、主力商品の「ANAハローツアー」において羽田空港発着路線の拡大に伴い商品ラインナップを拡充し、日本各地発の需要を取り込みました。また、訪日旅行を着実に取り込んだことにより、訪日旅行の取扱高が前年同期を上回りました。これらの結果、当第1四半期の売上高は367億円(前年同期比1.0%増)、営業利益は7億円(前年同期比27.0%増)となりました。
- ・商社事業においては、リテール部門や航空・電子部門の売上が好調に推移したこと等により、当第1四半期の売上高は300億円(前年同期比13.4%増)、営業利益は5億円(前年同期比29.7%減)となりました。
- ・その他については、不動産事業が好調に推移したこと等により、当第1四半期の売上高は75億円(前年同期比7.3%増)、営業利益は1億円(前年同期比45.8%増)となりました。

(4) 連結財政状態

(自己資本比率、D/Eレシオを除き単位未満は切り捨て)

【連結財政状態】	平成27年3月期 第1四半期	平成26年3月期	増減
総資産(億円)	21,976	21,736	240
自己資本(億円)(注1)	7,520	7,460	60
自己資本比率(%)	34.2	34.3	▲0.1
有利子負債残高(億円)(注2)	8,572	8,347	224
D/Eレシオ(倍)(注3)	1.1	1.1	0.0

注1: 自己資本は純資産合計から少数株主持分を控除しています。

注2: 有利子負債残高にはオフバランスリース負債は含みません。

注3: D/Eレシオ=有利子負債残高÷自己資本

(5) 連結キャッシュ・フロー

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【連結キャッシュ・フローなど】	平成27年3月期 第1四半期	平成26年3月期 第1四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	490	753
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲297	695
財務活動によるキャッシュ・フロー	113	▲494
現金および現金同等物期末残高	2,730	2,868
減価償却費	324	339

2. 平成27年3月期の見通し

- ・今後のわが国の経済は、各種政策の効果が発現する中で、景気は緩やかに回復していくことが期待されております。
- ・一方で、当社グループを取り巻く環境は、燃油価格の高止まりや為替レートの変動リスクに加え、国内外における競争がさらに激化することも予想されます。
- ・このような中、「2014-16年度 ANAグループ中期経営戦略」で経営目標とする「世界のリーディングエアライングループ」の実現に向け、コア事業であるフルサービスキャリア事業の強化、およびそれ以外の収益ドメインの拡大・多様化に向けたアジアへの戦略的投資による航空関連ビジネスの多角化戦略等を着実に遂行するとともに、コスト構造改革に取り組み、グループ収益の最大化を目指してまいります。

以上により、4月30日に発表いたしました平成27年3月期の連結業績見通しの見直しは行いません。

単位: 億円(単位未満は切り捨て)

【平成27年3月期見通し(連結業績)】	予想	前期実績 (平成26年3月期)	増減
売上高	17,000	16,010	989
営業利益	850	659	190
経常利益	550	429	120
当期純利益	350	188	161

以上